

職員奮闘記

システム開発 矢口 陽一郎さん

若葉台SDオフィスのシステム推進部でシステムエンジニアとして働く毎日。

「仕事は顧客の要望をセンターの技術部門や業者に伝えることです。顧客の気持ちを技術用語に翻訳して開発できるようにする、と言ったらいいのでしょうか。顧客からの要望が技術的に可能かどうか検討します」。「時には顧客に“こういう方法はどうでしょうか?”、とか、“こういう運用方法で解決できないのでしょうか?”、と顧客と一緒に考えることもあります」。顧客と開発部門の間に立って相互の仲立ちをするのが仕事。

「顧客は自分のしている仕事の内容はよく分かっていますが、システム、プログラムはよく理解していません。逆に開発部門ではシステム、プログラムはよく分かっているても要望の背景や

本質は具体的には分かりません。そこで両者の間に立って双方が納得のいくよう調整していくのです」。

現在、進めている仕事やこれまでしてきたのは図書館システム、電子申請、電子決裁、土木積算システムなど多彩。「顧客の立場に立って一緒に考えることをモットーにしています。でも両者に挟まれ

間に挟まれ苦しいことも 顧客と開発部門を仲立ち



てフーフーいうことも」と笑う。

いつも笑みをたたえ相手のいうことをよく聞いて問題の解決に当たるので、顧客、開発の双方から受けがいい、とは周辺の言葉。平成14年の職員採用試験に応募し、開発部門へ。年齢からも職員歴からも中堅になりつつある、と期待されている。

ロードレーサータイプの自転車が好きで、大山のあのきつい上り道を鏡ヶ成まで遠征したことも。「苦しい峠を越えた後の達成感が、なんとも言えません」と自転車の楽しみを語る。

鳥取市湖山町で妻との2人暮らし。32歳。

編集後記

▼鳥取県情報政策課、県立図書館から寄稿をいただきました。年末年始の忙しい中、ありがとうございました。表紙を飾った写真は県広報課所蔵「鳥取県写真ライブラリー」で、インターネットで無料公開されています。皆様も名刺などにいかがでしょうか。▼連載企画「古代の情報伝達」が八峠興先生の執筆で始まりました。残念ながら県内での烽火台遺構は未発見だそう、今後の発掘作業に期待します。

謎の加減

フィッシング

「おめでとうございます。1万円分の○○○ギフトカードがあたりました。当選を確定させるため、あなたのカード番号や有効期限をこのメールの返信として

送ってください」 こんなメールが来たらあうしまちろん、メールじ確認し発信元クレジットURLしてない。ラッキーカード力して、何に使あ…ちった！メール「フグ」かせん。

フィッシング (Phishing)」とは。オンライン詐欺の一種で、送信者を偽ったメールを駆使して消費者を「本物そっくり」の偽サイトに誘導し、個人情報を入力・送信させてだましとります。その口座番号やパスワード、クレジットカードの番号などを使って、現金を引き出したり、カードを偽造したりするわけです。手口がだんだんと巧妙化しており、偽サイトといえども、普通の人では見分けがつかないそうです。

平成16年を象徴する漢字は「災」でした。天災はもとより、「オレオレ詐欺 (振り込め詐欺)」の被害も後を断ちませんでした。今年を「穏」な年にするためにも、「メールで個人情報をきかれてもむやみに反応しない」という基本姿勢をしっかりと持つことが大切ですね。